

20076

A Case of EVT for Femoropopliteal Long CTO using IVUS Preceding Technique

¹関西医科大学

辻本 悟史¹、村川 紘介¹、藤川 雄介¹、梅村 茂雄¹、妹尾 健¹、元廣 将之¹、神島 宏¹、塩島 一朗¹

【Introduction】近年、慢性完全閉塞病変に対して IVUS を先行させ鈍的に進める IVUS preceding technique の有効性が報告されている。【Case】症例は 70 歳代の男性。左浅大腿動脈起始部から膝窩動脈(P1)までの閉塞に対して EVT を施行した。まず 0.014 inch ガイドワイヤーが近位断端の intraplaque を通過している事を確認した。次に IVUS preceding technique にて閉塞内へ IVUS を先行させ、さらに GuideLiner PV3 を追従させた。subintimal space へと迷入した場合は、intraplaque まで引き戻し再び 0.014 inch ガイドワイヤーで intraplaque tracking を行った。今回の症例では最終的に両方向性アプローチを要したが、IVUS では閉塞全長にわたって intraplaque を通過出来ている事が確認できた。バルーン拡張後に両断端の indentation が残存したため spot stenting を行い血行再建に成功した。【conclusion】同手法はリアルタイムに閉塞内の通過部位が確認できるため、intraplaque angioplasty の確率が向上しステント留置本数を減らす事ができる可能性がある。

